

鴨川市地域公共交通会議 令和4年度第2回会議

会 議 録

日時：令和4年8月22日（月）
午後3時から午後4時10分まで
場所：鴨川市役所4階 大会議室

1 会長及び委員

役職等	所属・職	氏名	備考
会長	鴨川市 副市長	平川 潔	
副会長	社会福祉法人鴨川市社会福祉協議会 事務局 局長	羽田 幸弘	
	日東交通株式会社 運輸部 部長	高橋 晴樹	
	一般社団法人千葉県バス協会 専務理事	成田 斉	
	小湊鐵道株式会社 バス部 部長	深山 宏樹	
	有限会社鴨川タクシー 代表取締役	本多 信介	
	日東交通株式会社労働組合 安房支部 支部長（鴨川担当）	佐藤 亮司	
	国土交通省関東運輸局千葉運輸支局 首席運輸企画専門官	高橋 直人	
	千葉県鴨川警察署 交通課 課長	太田 雅之	
	千葉県総合企画部交通計画課 企画調整班 班長	渡邊 彰	
	鴨川市校長会 会長	前田 桂子	
	東日本旅客鉄道株式会社 安房鴨川駅 駅長	山田 茂夫	
	利用者代表	平野 元美	

【欠席委員】

役職等	所属・職	氏名	備考
	千葉県安房土木事務所 鴨川出張所 所長	石渡 照康	
	利用者代表	藤本 文子	
	利用者代表	里見 桂子	

2 事務局

所属・職	氏名	備考
鴨川市企画総務部 部長	大久保 孝雄	
鴨川市企画総務部企画政策課 課長	滝口 俊孝	
鴨川市企画総務部企画政策課 課長補佐	鈴木 英毅	
鴨川市企画総務部企画政策課 住み続けたいまちづくり係 主事	加藤 貴啓	

[配布資料]

- ・次第、席次表、出席者名簿
 - ・資料1 鴨川市公共交通の令和3年度実績について
 - ・資料2 鴨川市公共交通の再編の方向性について
 - ・参考資料 鉄道の利用の少ない線区の経営情報等
-

■議事要旨

1 開会（午後3時） 司会 企画総務部企画政策課 滝口課長

- ・配布資料の確認
- ・会議の成立、公開の報告

2 会長あいさつ

（要旨）

ご多用の中、出席いただき感謝する。

本日の会議では、1件の報告に加え、1件の事項について、ご協議をお願いする。

詳しくは、事務局から説明があるが、忌憚のないご意見をいただけるようお願い申し上げます、会議の冒頭に当たっての挨拶とさせていただきます。

3 議事 議長 平川会長

会長が議長として進行

会議録署名人として、本多信介 委員を指名

報告案件1 鴨川市公共交通の令和3年度実績について

（事務局から、資料1及び参考資料に即して説明）

本多委員：タクシーの実績について補足する。

利用者数の回復傾向については、（有）鴨川タクシーで実施した観光庁の補助金を活用した事業によるものである。

協議案件1 鴨川市公共交通の再編の方向性について

（事務局から、資料2に即して説明）

羽田委員：3点、質問する。

1点目、資料中の「機能していない便」の意味について。

2点目、チョイソコかもがわの実証運行期間は今年度末までとされているが、運行継続可否に関する市の考えについて。

3点目、館山市及び南房総市でチョイソコを活用したデマンド型交通サービスが導入されるようだが、周辺自治体の動向について伺う。

事務局：1点目について、「機能していない便」の意味は、利用者数が少なく、買物や通院等のための生活交通として機能していない便として記載した。

2点目について、チョイソコかもがわの次年度以降の運行継続可否は、事

業主体の千葉トヨタ自動車（株）も本市も継続したいと考えており、継続に向けて協議している。同社から具体的な条件等が示された段階で、本市も具体的に検討する。

3点目について、近隣自治体におけるデマンド交通導入の動向は、羽田委員が仰るとおり、館山市及び南房総市が合同で本年10月から半年間程度の実証運行を、また、袖ヶ浦市においても本年10月から、長浦地区で実証運行が開始される予定とされている。

なお、どちらもチョイソコが活用されるものとのことである。

成田委員：3点、意見等を申し上げる。

1点目、報告案件1において事務局から説明があったとおり、現在、公共交通はコロナ禍の影響を受け、それ以前より非常に低い実績となっている。特殊な状況下の実績を基に再編の方向性を定めると、再編後の供給不足が想定されることから、このような想定の実績を記載されてはいかがか。

2点目、方向性としては全体的に削減していくこととなっているが、国や千葉県で様々な補助制度があることから、これらの活用を検討する表現を記載されてはいかがか。

3点目、金谷線は、富津市、鋸南町及び鴨川市の2市1町で協調補助されている路線と認識している。但し書きで富津市及び鋸南町から維持を求められていると記載があるが、鴨川市に決定権があるのか。

事務局：1点目及び2点目について、本日の資料は令和4年3月に策定した地域公共交通計画における再編の方向性を基に、一步踏み込んだ内容を提示した。今後のスケジュールとしては資料説明のとおり、次回以降、具体的な内容を協議いただきたいと考えている。ご指摘の表現等については、一旦事務局にて持ち帰りの上、検討させていただくこととし、次回以降、並行して協議させていただきたい。

また、提示した方向性については、利用者数の減少だけでなく、ドアツードアでなければ公共交通の利用が困難な高齢者等の増加といった利用者像の変化についても勘案し、コミュニティバスの一部の運行区間において乗合タクシーの実証運行等を検討することとしていることから、ご理解を賜りたい。

3点目について、再編の方向性の検討に当たり、金谷線の協調補助自治体から意向を伺ったところ、亀田総合病院への交通手段として維持したいとのことであった。鴨川市に決定権があるということではなく、参考情報として記載した。

高橋(直)委員：スケジュール（案）において、鴨川市内線は千葉県バス対策地域協議会で協議することとなっているが、地域間幹線系統国庫補助金の活用を検討するということか。

事務局：同路線の運行に当たっては、現在も同国庫補助金及び千葉県補助金が活用されているほか、本市も補助金を支出している。短縮系統の新設を検討することとしていることから、令和6年度事業での申請を見据え、同協議会における協議について記載した。

渡邊委員：同協議会事務局を務める千葉県としては、本件に関して特に連携を密にしていきたい。

高橋(直)委員：当該国庫補助金の直接の担当は関東運輸局であるが、千葉運輸支局としても連携を密にしていきたい。

また、ドアツードアでなければ公共交通の利用が困難な方々がいるとのことだが、他地域でマイカー等のドアツードアに慣れていると公共交通の利用への移行が難しいという話がある。ドアツードアに慣れる前に、路線バス等の公共交通の利用に慣れてもらう施策を検討されてはいかがか。

事務局：地域公共交通計画の施策の一つとして、モビリティマネジメントを実施することとしており、高齢者をはじめとした公共交通の利用が今後、想定される方々に向けた利用促進を検討していきたい。

また、千葉トヨタ自動車(株)が実証運行しているチョイソコかもがわでは、市立国保病院や鴨川市社会福祉協議会も協力し、公共交通で外出するきっかけづくりとして、イベントの開催等に取り組んでいる。同事業の運行継続については協議中であるものの、外出頻度の低い方々に対する利用促進、及び交通手段の確保の両面からも検討していきたい。

成田委員：南ルート of 曾呂地区等の区間及び清澄ルートの方向性の案2、乗合タクシーへの転換の検討においては、コミュニティバスを休止すると記載されているが、上手くいかない場合は、コミュニティバスに戻すことを想定しているのか。

想定されているのであれば、この案の場合、運行方式が大きく変わるため、地域の方々の理解を得ることが難しいことや、デマンド交通は予約を要するため、定時型の運行方式を好む方々もいること等から、例えば、利用状況等が一定の期準を満たさない場合は、コミュニティバスに戻すことも周知することで、利用の動機付けができると思う。

事務局：利用状況等が一定の基準を満たさない場合等、コミュニティバスの復活はあり得る。乗合タクシーへの転換が成功するか不確定であることから、実証運行としているが、現行のまま戻すということではなく、最低限コミュニティバスを運行するということで休止と記載した。

平野委員：公共交通を維持するための再編で、廃止となるよりは良いものの、現状でも通院の帰りでバスを1時間待つなど不便さを感じている。

また、再編により内浦地区や、北ルートの誕生寺入口から鯛ノ浦までの区間がなくなると、沿線に住んでる方々は困るだろうと思う。

本多委員：2点質問する。

1点目、チョイソコかもがわの運行継続可否の決定時期について。

2点目、コミュニティバスから乗合タクシーへの転換について、実証運行とのことだが、その期間はどの程度か伺う。

(有)鴨川タクシーは、長狭地域における市の予約制乗合タクシー実証運行業務に開始から終了までの2年4か月間、携わったが、定着させるには期間が短かったと感じている。

事務局：1点目について、チョイソコかもがわの運行継続可否は、遅くとも年内に

は決定したいと考えている。事業主体との協議次第ではあるが、可能であれば、10月の会議で協議をお願いする予定の金谷線及び長狭線の再編の具体化と併せて方向性を提示したい。

2点目について、乗合タクシーの運行内容は今後、検討していくが、本多委員のご意見も踏まえて検討する。

山田委員：利用者が増えないことには公共交通の維持は困難であり、元気な世代にいかにかに利用いただくかが重要である。

今後、本会議において、元気な世代に対する利用促進に係る議論をしてはいかがか。

会 長：地域公共交通網形成計画の施策として、高齢者や子ども向けの乗り方教室等の利用促進を実施してきたが、日常的な利用に繋がる利用促進も検討していきたい。

↓

次回の会議以降、資料2を基に具体的な内容を提示するとともに、再編の方向性については、本日の会議で挙げた意見等を踏まえて再提示することとして承認

4 その他

事務局：会議開催のスケジュールについて、今年度内に3回程度の開催を予定し、次回の会議は10月中を目途に開催したく考えているため、よろしく願いする。

5 閉会（午後4時10分）

以上

令和4年9月20日

会議録署名人 本多 信介